

英語保育教材の開発と実践
— コアラの手遊びを指導して —

横井一之 高森亜季子

On the Invention and Practice of English Materials for Early Childhood
Education

— Through the Instruction of the Finger Rhyme of “Koala” —

Kazuyuki YOKOI Akiko TAKAMORI

In our bulletin last year, we made two music scores of 'koala' and 'wombat', and created finger rhymes of these songs.

Yokoi visited an Australian kindergarten in February 2005 and taught the finger rhyme of 'Koala' to 4 and 5-year-old children.

In this paper, we report the process of this instruction in Australia and add detailed consideration to it.

Takamori also analyzes the finger rhymes which the Australian kindergarten teacher played.

はじめに

昨年の紀要では、コアラとウォンバットの歌を採譜し、手遊びを創作した。平成 17 年 2 月に横井はオーストラリアの幼稚園を訪問し、4, 5 歳児にコアラの手遊びを指導した。本稿では、その様子を報告し、その内容について考察を加えた。高森はオーストラリアの幼稚園教師が演じた手遊びについて分析を行った。

1 活動名

パネルシアターや手遊びを楽しむ。

2 活動のねらい

- ① 楽しみながら、コアラの手遊びをする。
- ② パネルシアターを觀賞して、動物に興味をもつ。

3 設定理由

コアラの歌はもともとオーストラリアで創られたものである¹⁾。その歌を元にして手遊

びを横井らが創作したのは昨年の紀要に示したとおりである。

日本の幼稚園・保育所でこの歌を用いて手遊びをしようとするとき、使用言語が英語であることが障害になる。よって、英語圏の幼稚園で子どもに指導する必要がある。そこで、コアラの故郷オーストラリアの幼稚園で指導を行うことにした。

コアラはオーストラリア大陸にのみに棲息し、その毛むくじゃらな顔や、おっとりとした仕草で、日豪問わず子どもたちに大変人気がある動物の一つである。コアラを取り上げた歌²⁾は日本にもあるが、コアラの生活や行動の様子を歌った歌はない。オーストラリアの子どもは、コアラが大好き³⁾で、その様子もよく知っている。その意味で、世界中でコアラの手遊びをするのに最も適した子どもだと言えることができる。

一方、パネルシアターは白い布を貼ったパネル台の上に絵札を貼りながら、歌を歌ったり物語を語る、大型の紙芝居のようなものである。紙芝居に比べて、絵札そのものが動いたり、また絵札の手や足の部分も動き、それだけ子どもの目を惹き付ける力は強い。英語圏ではその材質から felt stories と呼ばれ、子ども達の人気は高い。横井はこれまで、ロンドンの幼稚園⁴⁾でパネルシアターを実演した経験があり、日本語で演じたにもかかわらず大変好評を博した。

4 展開記録 (表1)

表1 展開記録 (手遊び・パネルシアター観賞)

2005年2月1日 4, 5歳児クラス 19名 (男児9名、女児10名)			
時間の流れ	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
11:01	T(教師) 配置	<ul style="list-style-type: none"> ・教師を注目し、一緒に手遊びをする。 B: 男児 G: 女児 	<ul style="list-style-type: none"> ・T(担任ジェーン(仮称)先生は、子どもが集中するように手遊びをする。 ・TはYと一緒に手遊びをしたり、パネルシアターを観賞することを子どもに伝える。
	B G B G G B B G G G B G B G G G B B B AT 絨毯の上 Y(横井) AT (助手)		
11:02		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで手遊びをして、パネルシアターを見ることを知る。 ・かなづちとんとんの演技を見る。 ・かなづちとんとんの手遊びをYと一緒にする。 ・Tと一緒にYにオース 	<ul style="list-style-type: none"> ・Yは子どもに挨拶をする。(Tの位置で) ・Yはかなづちとんとんを演ずる。 ・子どもといっしょに手遊びを演ずる。 ・準備の時間を利用し、
	テーブルコーダ利用		

11:06	<p>の確認 ATはテープレコーダを用意する。</p>	<p>トラリアの「かなづちとんとん」を演ずる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コアラの歌を聞く。 ・手遊びを見る。 ・Yと日本人実習生との日本語による会話を聞く。 ・Yの手遊びを見て、一緒に手遊びをする。 ・2人で機関車が走るような仕草をする。 ・音楽に合わせて、全員で2度手遊びを演じる。 ・声を掛けられなかった2名の女兒が、止められるまで機関車歩きをしている。 	<p>YはTより、オーストラリアにも「かなづちとんとん」の手遊びがあることを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープの歌を流す。 ・Yはコアラの手遊びを演技する。 ・Tは隣の保育室にいる日本人実習生を呼ぶ。 ・実習生は戻る。 ・TとYは母コアラが子コアラを背負う仕草を示す。 ・終了したことを女兒に伝える。 ・良くできたと褒める。 ・日本語で演じる。
11:14	<ul style="list-style-type: none"> ・パンダうさぎコア 	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊びを見る。 ・一緒に手遊びを演じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で演じる。
11:16	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル台 	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルシアターを見る。 ・シャボン玉は“a long bubble”などと英語の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しゃぼん玉とばせ」を演じる。
11:21	<ul style="list-style-type: none"> ・四角さんを Mr. square と紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・四角さんを見る。 ・質問に答える。 “a sheep”, “a doggie” “a cat”, “a horsie”, “a crub”, “a tiger” “an elephant”, “a koala” 	<ul style="list-style-type: none"> ・四角さんの紹介。 ・“What’s this?”と質問すると、“doggie”のように幼児語で答える時があるが、“yes,a dog”と応答する。

5 実践記録(オーストラリア・シドニー・ABCウルチモ幼稚園)

ABC 幼稚園はオーストラリア・ニューサウスウェールズ州で 100 以上の幼稚園を管理

する幼稚園グループである。訪問日2月1日には、まずシドニー市内の州事務所を訪れた。そして、もともとオーストラリアの歌なので、「2つの歌を知っているか」と2名のマネージャーに楽譜を見ていただき、歌をテープレコーダで聴いていただき尋ねた。「聴いたことがない」という答だった。そして、幼稚園を見学させて欲しいことを申し出て、さらにどこかの幼稚園で横井にコアラの手遊びを子どもに指導させてほしいと頼んだ。そして、許可をもらい、2つ目の訪問園であるウルチモ幼稚園で指導させていただくこととなった。

ウルチモ幼稚園はシドニー市内の港再開発地区ダーリングハーバーにあり、近くにはカジノもあり、シドニータワーや高層ビルディングを極近に眺めることができる。園庭は屋上にあり、さらに固定遊具と砂場が室内にも設置されている。園児は全員で80名弱であるが、私が訪問した4, 5歳児クラスには19名の子どもがいた。私が指導させていただく前後のジェーン先生（仮称）の指導を見せていただいたが、非常に指導力のある教師だと感じた。教師は他に助手が1名おり、19名の子どもに対して大人2名での指導体制である。

横井がクラスを訪問すると、すでにマネージャーから訪問の主旨が伝えられており、ジェーン先生は子どもに絨毯の上に座るように指示した後で、ほとんどの子どもがそれに従っていた。椅子や机を片付けてから、ジェーン先生は子どもを集中させるために譜表1の手遊び“One,two,three,four,five ……”をなされた。子どもは先生と一緒に静かにその手遊びをした。

譜表1 One,two,three,four,five ……

One,two,three,four,five……

One two three four five once I caught a fish a- live

Six sev- en eight nine ten then I let it go a- gain

Why did you let it go? Because it bit my fin- ger so

Which fin- ger did he bite? This little fin- ger on my right

譜表 2 Johnny bangs with one hammer

Johnny bangs with one hammer



- | | | | | | | |
|------------------------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|
| 1. John- ny bangs with | one | ham-mer | one | ham-mer | one | ham-mer |
| 2. John- ny bangs with | two | ham-mers | two | ham-mers | two | ham-mers |
| 3. John- ny bangs with | three | ham-mers | three | ham-mers | three | ham-mers |
| 4. John- ny bangs with | four | ham-mers | four | ham-mers | four | ham-mers |
| 5. John- ny bangs with | five | ham-mers | five | ham-mers | five | ham-mers |



- | | | | | |
|---------------------|-------|----------|--------------------|-------|
| John- ny bangs with | one | ham-mer | then he bangs with | two |
| John- ny bangs with | two | ham-mers | then he bangs with | three |
| John- ny bangs with | three | ham-mers | then he bangs with | four |
| John- ny bangs with | four | ham-mers | then he bangs with | five |
| John- ny bangs with | five | ham-mers | then he goes to | sleep |

ジェーン先生の手遊びのお陰で、静かな雰囲気の中で横井は自己紹介することができた。そして、最初に挨拶代わりに日本語の「かなづちとんとん」の手遊びをした。子どもは3番の足を動かすあたりから、笑って演技するようになった。

次に、コアラの歌を聞くために近くに置いてあるテープレコーダを貸してくれるように頼むと、他の部屋にあるものをAT（助手）が取りに行った。その間を利用して、ジェーン先生は横井に「オーストラリアにも同じような手遊びがある」と言って、譜表2の手遊びを教えてくれた。振り付けは1番右手、2番左手、3番右足、4番左足、5番頭と、日本の歌と同じで、メロディがやや違っていた。たまたまテープレコーダの登場まで時間がかかったので、その間にジェーン先生が手遊びをすると、子どもも一緒にその手遊びを教えてくれた。

さて、コアラの歌をテープレコーダで子どもが聞いたところ、何の違和感もない様子であった。手遊びの指導では、私が話をするたびに担任のジェーン先生が子どもに解説をして下さり、子どもはごく普通に指導どおり手遊びをした。歌を3回繰り返したが、8分でだいたい手遊びができるようになった。

パンダうさぎコアラの手遊びは、「おいで、おいで、おいで、おいでパンダ……」というところを、“come on, come on, come on Panda……”と置き換えたもので、ほとんどの子どもが理解して横井と一緒に手遊びができた。

パネルシアターは指導の全体の流れの中で時間がとれれば演じようと思っ持参したのだが、コアラの手遊びの指導が思ったより短時間で終了したので、演じることにした。「しゃぼん

玉とばせ」⁶⁾は小鳥、カエル、蛇……という順番で登場するのだが、蛇が長いしゃぼん玉をふくらませるあたりから、子どもが慣れてきてパネルシアターの世界に没頭し始めた。そして、後半タコの墨の色、黒いしゃぼん玉が出るときには「あーあ」という感嘆のため息のような声が出た。

「四角さん」⁶⁾よりは「まんまるさん」⁷⁾の方が日本の子どもにはなじみがあるが、「四角さん」は「まんまるさん」の替え歌である。「四角さん、茶色いお顔の四角さん、あなたはいっただいあれ……」で始まる。すでに子どもはパネルシアターの世界に没頭しており、“What’s this?”という横井の問いかけに、“a cat”などと全身の力を振り絞って答えてくれる。横井も“good”とか“good jobs”と子どもたちを褒め讃える。また、ときに“a dog”を幼児語で“a doggie”と答えることもあるが、それには“good, yes dog”と同じように褒め讃える。

そして、パネルシアターはコアラの四角さんで締めくくった。

6 考察

横井が事務所を訪れてから1時間後、オーストラリアの子どもの前で手遊びの指導をすることとなった。おそらく、担任のジェーン先生もこのことは直前にマネージャーに聞かされたわけで、保育者にとっては非常に迷惑な話だと思う。その点からも、あらためて感謝の意を表したい。

子どもを絨毯の上に座らせるときの慌ただしさ、そして横井の指導が終了してから子どもたちに指示を出す様子は、日豪まったく同じである。横井のゆっくりした英語から、ジェーン先生のきびきびした言葉にかわる。日本で言えば、保育実習生がゆったり指導していた研究保育の後、担任が仕上げるときの様子である。

横井自身、こんなにあっさり初めて会ったオーストラリアの子どもの、初めて聞いた音楽に合わせて手遊びをしてしまうとは思ってもみなかった。実践記録のところでも記述したように、担任のジェーン先生が横井の意図を汲み取って、こと細かく子どもに指示を出して下さったお陰だと、深く感謝している。

途中、私が子どもの様子を確かめながらゆっくり指導していると、たまたま隣の保育室にいた日本人の教育実習生をジェーン先生は助っ人として呼んで下さった。この実習生はオーストラリアの保育者の資格を取得するために、オーストラリアの養成校⁸⁾で学び、この幼稚園で保育実習をしている最中だった。

「彼しかこの手遊びは知りません」という言葉を残して彼女は自分の保育室へ戻った。私は日本語でその実習生にお礼の言葉をかけた。

私が指導させていただく前に、子どもが集中するようにジェーン先生が用いた手遊びは“One,two,three,four,five……”で、日本だと「ひげじいさん」のような曲だろう。

さて、「かなづちとんとん」だが、日本語で演じたにもかかわらず、子どもは3番の右足が登場するあたりから笑い出した。手と足の動きの不揃い、つまり他人の姿、そして自分の

手と足の動きのアンバランス、それから生じる滑稽さ故に笑い出すのである。この笑いの原因は、理性ではなく感性がその大部分を占める。現場の保育者から「えい、やあ、とう」というかけ声が面白くて、友達を足蹴りする遊びが流行ったことがあると聞いたが、これと共通するものがある。

ところで、逆に子どもから教えられたオーストラリア版の「かなづちとんとん」だが、歌詞がとてもよく似ており、メロディも少し似ている。同じような手遊びに「頭、肩、膝ぼん」⁹⁾がある。両国の、両方の歌とも単純だがとても愉快的な手遊びである。

本題のコアラの手遊びであるが、子どもは歌詞の意味が十分に理解できている様で、振付けの動きに違和感はなかった。最初の4小節を日本語にすると「ユーカリを見上げてごらん、だれかがかくれんぼ、葉っぱの影から、私を覗いているのは誰かな」だが、「子どもは日本語で歌っている」ように私には見えた。

2番の途中で「赤ちゃんコアラは喜び、ママの背中に飛び乗り」の2小節は、子ども2人で連結した機関車のように右回りするところだが、演じるように指示した女兒2人はその場面が終わってもずーっと機関車ごっこをしていた。

パネルシアターのしゃぼん玉とばせだが、すべて日本語だと何のことかまったくわからないので、小鳥のときは“a tiny bubble”，カエルのときは“a green bubble”と少し英語で言葉を添えた。子どもは「ふむ、ふむ」と納得したような顔をしていた。

四角さんでは、動物を示して“What's this?”と問いかけた。子どもは答えるとき、“a doggie”というように“-ie”と語尾を付ける。いわゆる幼児語である。四角さんを演じたとき、馬はたしかに“a horsie”と聞こえたが、この単語は馬の幼児語だと思われるが英和辞典に載っていなかった。

注釈

- (1) Elaine Callister " Australian birds & animals " Wycliffe Bible Translators
- (2) 作詞：高田ひろお 作曲：乾 裕樹「パンダ うさぎ コアラ」
- (3) オーストラリア・ゴールドコースト付近では Dream world のようにコアラを抱っこして一緒に写真をとれるところや、コアラのテーマパーク Loan Pine Koala Sunctually などがある。
- (4) Woodside Park Kindergarten (Woodside Park Road, London)
- (5) 作詞：古宇田 亮順 作曲：家入 修「しゃぼん玉とばせ」
- (6) 作詞・作曲：古宇田 亮順「しかくさん」
- (7) 作詞・作曲：古宇田 亮順 編曲：家入 修「まんまるさん」
- (8) ABC Early Childhood Training College, Brisbane & Cairns Australia
- (9) 日本の歌「頭、肩、膝、ぼん」とオーストラリアの歌 " Heads and shoulders and knees and toes "